

## 論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

志賀 隆

主論文の題目  
および  
掲載・審査委員

題目 Factors Associated with Longer Transportation Time to North American Style Emergency Department in Japan

（日本において北米型救急部門に長い搬送時間にて搬送される因子）

掲載誌 Journal of St. Marianna University 2020;10:89-94

主査 清水 直樹

副査 松田 隆秀

副査 松本 直樹

[論文の要旨・価値] 高齢化の進む日本では、限られた病院前救急資源を活用するため新しい救急搬送に関するシステム構築が望まれる。地域救急システムの中で三次救急機関とは異なる北米型救急部（North American Style Emergency Department; NAED）の特徴を明らかにするために、申請者らは、NAED に長時間かけて搬送される患者の特徴を調査した。人口約 50 万人の千葉県医療行政区において、2012 年に東京ベイ浦安市市川医療センターへ救急搬送された症例の救急搬送記録を用いて、後ろ向き観察研究を行った。救急搬送時間 35 分（データ取得期間における行政区内の全搬送の平均値）を越えた症例において、搬送時間が長時間になる因子と病院応需までの交渉回数を解析した。最終分析には 2,934 人の患者が含まれた。長時間搬送と相関があった因子は、多変量ロジスティック回帰分析の結果、年齢（OR 1.02 95%CI 1.02-1.03）・整形外科領域患者（OR 1.69 95%CI 1.08-2.66）・脳神経外科領域患者（OR 1.72 95%CI 1.21-2.47）・搬送応需までの交渉回数（OR 4.08 95%CI 3.12-5.33）であった。また、搬送応需までの交渉回数と相関した因子は、内因性患者、整形外科領域患者、高齢者であった。本研究により、救急隊は NAED に特定の患者群を搬送していることが明らかになり、整形外科・脳神経外科領域などの患者や高齢者などが他施設に断られた際には、NAED が受け入れていることを示唆していた。救急医療政策の更なる発展の為に、NAED の救急医療全体に対する影響をさらに調査する必要がある。医療行政連携含め、今後の展開が期待できる優れた研究であり、学位に値すると判断した。

[審査概要] 審査は主査、副査および 5 名の陪席のもと行われた。PC によるプレゼンテーションの後、質疑応答が行われた。審査のなかでは、(1)北米でのトリアージ含めた NAED の実情・医療経済的背景 (2)総務省消防庁データへのアクセス方法と限界 (3)研究計画における各種用語の定義・除外基準等 (4)小児救急患者における整形外科・脳神経外科領域の 95%CI (0.24-13.29, 0.31-10.50) がひろい理由 (5)救急関連データ整備の方向性と今後のさらなる研究展開の可能性など、多岐にわたる質問が出され、申請者は概ね的確に回答した。

## 最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] パワーポイントを用い大変わかりやすく練られた構成の発表であった。申請者は本研究に関する幅広い知識を有しており、専門的知識を有すると判断した。質疑応答も専門領域だけでなく周辺領域についても的確に回答し十分な発表能力があると判断した。研究発表、質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、誠実で礼儀正しく、学位授与に値する人物であると判断した。英語は申請者が引用文献に用いた文献についてその場で箇所を指定し、訳してもらうことで評価し十分な語学力を有すると判断した。